国際医療人材を育成

学校法人 大阪滋慶学園

第1回アジア臨床工学フォーラム4月開催

滋慶学園グループの学校法人である大阪滋慶学園は、医療や介護福祉、スポーツなど幅広い場面で最先端を走る即戦力人材の育成に取り組んでいる。大阪医療技術学園専門学校のクノロジー専門学校、大阪保健福祉専門学校、大阪医療福祉専門学校、大阪医療看護専門学校の5校に加えて2011年4月に国内初の医療安全管理学を学ぶ滋慶医療科学大学院大学が開学し、6校の教務、就職、事務の3部門が一体となった「職業人教育」を推進する。12年4月に大阪保健福祉専門学校に通信教育科が誕生し、13年4月には島根県出雲市に公私協働型の医療看護専門学校も開設される。「第1回アジア臨床工学フォーラム」の開催も控え、国際化対応へのアプローチも積極的だ。一段と高いステージを目指す大阪滋慶学園の挑戦も加速度を増す。

国際化活動、集大成

海外友好の取り組み結実

大阪滋慶学園は4月22日、大阪国際会議場（グランキューブ大阪、大阪市北区）で「第1回アジア臨床工学フォーラム」を開く。共催は中国の上海理工大学と上海医療器械高等専科学校。大阪滋慶学園にとっては初の国際的なイベント開催となる。主催は学校法人大阪滋慶学園・滋慶医療科学大学院大学・アジア職業人材育成センターで、この種のフォーラム開催は全国的に珍しい。フォーラムには臨床工学技士などのアジア10カ国の研究者や医療関係者のほか、関連企業、学校教職員、在学生などが参加する。中国を中心に海外からの参加も含めると400人規模になる。「大阪滋慶学園が海外の大学、職業学院との協力関係を築くうえで、この進出は大きなチャンスとなる」（橋本勝信常務理事）と滋慶グループだけでなく、日本の医療界全体からも期待が膨らむ。

大阪滋慶学園が中国の職業教育と提携を深めてきた交流の歴史は長い。古くは1985年に国立広州中医学院（広州中医薬大学）と漢方薬学を学ぶセミナーを始めてからだ。01年に行った上海医療器械高等専科学校との臨床工学科の合作も日本国内の臨床工学技士教育のレベル向上へのきっかけとなった。

さらに11年に立ち上げた「滋慶医療科学大学院大学」と「アジア職業人材養成センター」も大きな転機といえる。滋慶医療科学大学院大学は医療管理学研究科があり、医療安全管理を学ぶ国内初の大学院。医療機関でマネジメント能力を発揮できる人材の輩出を目指す。アジア職業人材養成センターは、滋慶医療経営管理研究センターが中心となって設立した。留学生からの生活、学習、就職、進路など幅広い相談を受け付ける。

これらの動きは高度な〝専門職業人〟養成活動を

大阪滋慶学園では毎年、多くの留学生を受け入れている（医療器械メーカーでの研修）

大阪ハイテクノロジー専門学校に設置している日本語学科の授業の様子

国内だけでなく、アジア全体に広げる狙いだ。職業人教育は、医療関連企業が発展することにつながるだけでなく、人材を育て、求人増加に発展し、学校側も教育レベルが上がり、産業構造の変化に貢献する。

大阪滋慶学園が掲げるのは「グローカル」の視点。医療の発展には国内を飛び越えて、アジアとその先にある世界を見据える必要がある。グローバルな視点が欠かせないのは当然だが、医療は世界各国独自の制度の下で運用されているのも事実。そのため、ローカルなビジョンも磨かねばならない。「グローカル（Glocalization）」はグローバルとローカルを組み合わせた造語だ。大阪滋慶学園が求めて育てるのも、両方を兼ね備えた人材だ。

職業教育 アジアに広げる

「グローカル」の基盤を築くためにも海外研修にも力を入れている。最新鋭の実習設備をそろえた医療施設で、日本では体験することが難しい講義を受けている。海外で語学研修ができる制度もあり、多角的な人材育成ができる。

一方、教員の交流も活発だ。年間で数回、教員の相互交流を行っている。中国の合弁・合作提携校を中心に02年から10年までの9年間で米国と中国へ送り込んだ教員数は約300人。米国、中国から大阪滋慶学園に受け入れた教員も約80人だ。双方が出張講義や短期研修を実施する。

いよいよ「第1回アジア臨床工学フォーラム」の開催が迫る。4月22日は、午前中に計5演題の講演が開かれ「アジア各国の臨床工学」をテーマにしたシンポジウムがある。午後は「臨床工学職場及び人材養成のグローカル化への変化」と題したシンポジウム第2部があり、「グローカル医療に求められた臨床工学の展望」を論議するパネルディスカッションが開かれる。座長は加納隆埼玉医科大学教授が務める。

大阪滋慶学園にとっても集大成となる「第1回アジア臨床工学フォーラム」。すでに2回目のフォーラムは、13年4月に上海での開催が決まっている。フォーラムは国際社会に通用する人材を育て、国際的な〝医療産業都市〟を創成する道標になる。大阪滋慶学園の取り組みは、あらゆる臨床の場面で通用する優れた人材を生み出すため、新たな風を吹き込む形になりそうだ。

島根・出雲に来年進出

4学科設置 医療看護専門学校

13年4月に開校する「出雲医療看護専門学校」の完成イメージ

出雲で未来の看護師を育てる―。大阪滋慶学園は2013年4月、島根県出雲市に「出雲医療看護専門学校」を開校する。

地元の出雲市から新規立地の誘いを受け、同市との協議を進めた結果、大阪滋慶学園グループとしては初めてとなる山陰地方への進出を決めた。過疎地域における若年層の定着を促進するとともに、地元での雇用の確保と看護師不足を解消するのが狙いだ。

出雲医療看護専門学校には看護学科と理学療法士学科、言語聴覚士学科、臨床工学技士学科の4学科を設置する。

看護学科は地域の医療・福祉の担い手として活躍できる質の高い看護師を育て、医師の指示のもとで診療補助などができる看護実践能力を身につけた人材の育成を目指している。

理学療法士学科は身体機能に障害のある人に物理療法を施しながら、動体能力や社会的適応能力の回復など、理学療法実践能力を高めた人材に育てる。

言語聴覚士学科は音声・言語機能や聴覚に障害のある人に機能回復を目指した訓練や助言ができるようにする。

臨床工学技士学科は医療機器の開発やメンテナンスができる人材を養成し、血液透析や生命維持管理などの医療機器や各種装置の操作、これらの保守管理などについて高い実践能力を持つ臨床工学技士を育成する。

出雲医療看護専門学校は全日制の3年制で、学生数は600人の規模となる見込み。現在、出雲市内に開設準備室を設置し、1年後に迫った開校に備えている。

看護師不足 解消目指す

通信教育科4月開設

大阪保健福祉専門学校 eラーニングも導入

大阪保健福祉専門学校は4月に別科として通信教育科を開設する。募集は看護通信教育科、社会福祉士通信教育科、精神保健福祉士通信教育科、保育士通信教育科の4学科。いずれもが大阪滋慶学園が掲げる「生涯教育」を充実させた学習体制を敷いている。

仕事を継続しながら、キャリアアップのために正看護師を目指す准看護師をバックアップする看護通信教育科は2年間で計65単位の履修を行う。自分のペースで学べるように放送大学での履修科目と学校での履修とに分け、学校ではインターネットを通じて課題を提出し、添削した上で返却する。独自のeラーニングシステムは「Jメイト」と名付けた。教本だけで理解しづらい内容はVOD（ビデオ・オン・デマンド）を使い、理解を深める。指定の日時に担当講師から面接を受けるスクーリングや病院見学の臨地実習も盛り込む。

社会福祉士、精神保健福祉士、保育士を養成する他の3科も同様に「Jメイト」を活用し、国家資格取得を目指す学生をサポートする。今春から新たにスタートする通信教育科。その中で看護通信教育科は定員250人。入学者も最高齢で58歳の入学が決まるなど、すでに200人近くに達している。通信教育の大きな強みでもある抑えられた学費は社会人にとってもメリットは大きい。開校が近づくにつれて反響も大きくなっているため、大阪保健福祉専門学校も手応えをつかんでいる。

看護通信教育科は2年間、働きながら正看護師を志す准看護師をバックアップ

通信教育科は、滋慶学園グループが全国に持つ各専門学校とも連携できる強みもある。大阪保健福祉専門学校はキャリアアップやスキルアップに向けて頑張る社会人の支援を向上させる。通信課程の認知度を高めた上で、看護師などの国家試験の合格率100％を目指す。

医療安全エキスパート養成

滋慶医療科学大学院大学 開校から1年

1期生多彩な顔ぶれそろう

滋慶医療科学大学院大学は医療現場で発生する医療事故の予防や、事故後の対応など医療全般における質的な向上を先導する人材の育成を目指している。入学した学生は講義を受講し、必要な単位を習得する。その後、研究論文を作成して審査に合格すれば、医療安全管理学の修士号が授与される。

卒業生は医療現場や医薬品・医療機器メーカー、教育機関、行政など多岐にわたる分野で「医療安全のエキスパート」としての活躍が期待されている。第1期生24人は全員が社会人選抜試験を経て入学した。その内訳は大学卒業者13人と、個別資格審査で認定された11人。学生の平均年齢は42歳で、これまで社会人としての就業年数が平均20年のベテラン勢が多い。同校で医療安全に関わる知識と技術を身につけ、さらなるキャリアアップを目指す人材が集結した。

出身の職種は医師や看護師をはじめ、臨床検査技師、臨床工学技士、理学療法士、診療情報管理士などさまざまで、多職種横断のメンバーだ。こうした多彩な顔ぶれが、これまでの経験を生かしつつ医療現場で患者の安全について学び、研究を深めている。

現在、同校では修士論文の作成が始まり、学生と指導教授（主・副）がペアとなり研究計画を練り上げている。研究倫理委員会で審査された後、研究が開始される。

11年11月に東京ビッグサイトで開催された医療安全に関するわが国唯一の学会「医療の質・安全学会学術集会」において、学生5人が一般演題・ポスター発表、教員9人もシンポジウムなどで論文発表の場に立った。

同校は医療安全管理学と、これに関連する医療経営管理学の二つの教育分野を設置しているのが特徴。授業科目は、医療コミュニケーション、人間工学、経済学、法学、臨床医学等に関連した基礎科目、安全心理、司法、医療福祉施設関連の専門基礎科目から選択可能。医療セーフティーマネジメント、医療情報学、専門職連携実践論などが必須科目となっている。

さらに、医療安全管理学分野では医療機器材料、感染制御、医薬品安全、看護安全管理などが必修に、医療経営管理学分野では医療行政、医療経済、財務会計、経営組織論などが必修科目となっている。

同校はわが国屈指の教授陣をそろえており、質・量ともに充足した授業と個別論文指導により医療安全管理学修士を養成している。日本の医療安全管理を学生とともに学び研究し、実践していく考えだ。

医療安全に関わる知識と技術を身につけキャリアアップを目指す人材が集結した

医療安全 議論意義深い

日本光電工業 専務執行役員　原澤 栄志

第一回アジア臨床工学フォーラムが開催されること、誠におめでとうございます。日本を超え、広くアジアをフィールドとして臨床工学の視点から医療に向き合う、とりわけ医療の安全について議論をすることは大変に意義深く、医療関係者のみならず一般の方々にとっても大変に喜ばしいことです。

高齢化社会の訪れとともに、医療・介護のさまざまな課題、要望が毎日のように語られていますが、その解決に向けては現場視点から広く英知を集める取り組みが重要であります。このフォーラムがその役割を担って多くの成果を生むことを期待しています。産官学連携、医産の連携は医療産業を成長に導く重要なキーワードでもあります。同じ輪に入って、われわれ企業人も医療機器を通じてアジアの医療・介護に貢献できるように努めたいと思います。

交流と合作のチャンス

上海医療器械高等専科学校 専科学校副校長　丁 岳偉

上海医療器械高等専科学校は1999年以来、大阪滋慶学園との間で国際教育に関し友好交流を図り「臨床工学技術」という合作項目を実施してきました。この取り組みは中国教育部、国家衛生部、中国中華医学会および中国内の大型病院に高く評価され、国家高等職業教育成果展示会においても「国際合作成果」として展示されました。

両校間では教師と学生の相互訪問および交流が頻繁に行われています。これまで10余人の本校卒業生が大阪滋慶学園へ留学し臨床工学技士の国家資格を得て日本の医療機関に就職しています。

教育合作は両国の医療衛生健康事業の発展、中日友好の深化に貢献しています。第一回アジア臨床工学フォーラムは、学校、医療機関や企業間の交流と合作、または臨床工学人材の養成とキャリアアップのための重要な機会になるでしょう。

フォーラム開催にあたって　メッセージ

各国のきずな 深化期待

大阪府臨床工学技士会会長　村中 秀樹

フォーラムの開催おめでとうございます。われわれ臨床工学技士は「安全・安心な質の高い医療の提供」という医療における最重要項目に対して、医療機器を通じて寄与しております。さらに日本の医療現場で必要とされる「効率的な医療の提供」においても必要な職種であると自負しているところです。

近年の医療技術の進歩には医療機器の開発進化に伴う複雑化と多様化が欠かせません。それはアジアのどの国にとっても同様です。今回のフォーラムを通じて各国の現状を知るとともに、互いに良いところを学び、知恵を出し合う。さらに自国の安全・安心な質の高い医療を効率的に提供できる体制とは、どうあるべきかを考えるための良い機会になると思います。

今回のフォーラムが成功し、アジア各国の絆が深まることを期待しております。

臨床工学の発展を望む

大阪府医師会会長　伯井 俊明

アジア各国の臨床工学技士、医療関係者などが一堂に集い、知識や技能の向上を目指す記念すべき第1回アジア臨床工学フォーラムが、大阪の地で開催されますことをお喜び申し上げます。

臨床工学技士の業務は、医師の指示の下に生命維持管理装置の操作および保守点検を行うとされています。近年の医療技術、医療機器の進歩に伴う医療の高度化、専門分化の進展などを背景に、チーム医療の円滑な推進が、より質の高い医療を提供するうえで極めて重要になっています。

医療機器の専門職である臨床工学技士の皆さまが、医療チームの一員として医師をはじめ医療関係者と緊密に連携し、安全で安心な医療の提供に尽力されることと合わせ、このフォーラムが臨床工学の発展と、技術・人材の相互交流に貢献されますことを期待いたします。